

# 正 誤 情 報

このたびは森北出版株式会社発行の書籍をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。下記の書籍につきまして誤りのある箇所がございましたので、お詫びし訂正させていただきます。

2018年11月15日 森北出版株式会社 生産マネジメント部

## タイトル

## 例解図説 オートマトンと形式言語入門

### 正誤対象

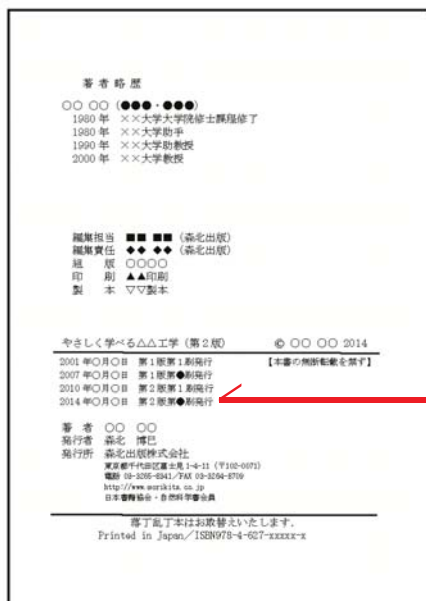
お手持ちの書籍の刷数をお調べのうえ、下の表をご覧ください。正誤表内の一番左に「対応刷数」という列がございます。該当する刷数の訂正情報をご参照下さい。

なお、刷数につきましては下記「刷数の調べ方」をご参照ください。

お持ちの本の刷数	
1	対応刷数 1 より 2 までをご参照ください
2	対応刷数 2 をご参照ください
それ以降	現在把握している訂正情報はございません

### 刷数の調べ方

本の一番後ろのページ(広告等除く)に下図のようなページがございます。ご参照いただき、お持ちの本の刷数をお調べください。



日付の最も新しい行に記載された数字がお持ちの本の刷数となります

対応 刷 数	頁	行数, 図・ 表・式番号	誤	正
1	4	図 1.5		200 円
2	8	下から 2 行目	$\bigcup_{i \in \{1, \dots, n\}} A_i \dots$	$\bigcup_{i \in \{1, \dots, n\}} A_i \dots$
1	9	例 1.4 4 行目	$\dots, q(q_1) = \{q_1, q_3\}, q(q_2) = \dots$	$\dots, \delta(q_1) = \{q_1, q_3\}, \delta(q_2) = \dots$
1	12	例 1.8 3~4 行目	$\dots, q(q_1) = \{q_1, q_3\}, q(q_2) = \dots$	$\dots, \delta(q_1) = \{q_1, q_3\}, \delta(q_2) = \dots$
1	16	13 行目	• $\sum^*$ 上の言語としては, $\dots$	• $\sum$ 上の言語としては, $\dots$
1	52	図 2.51	右図のように左下の $q_D$ を二重丸にする	
1	53	図 2.53		$2R'3$ $3R'2$

1	53	図 2.54		 ※円中央の破線を削除								
1	60	下から 9 行目	…も有限指数 <u>指数</u> をもつ。(証明終)	…も有限指数をもつ。(証明終)								
1	61	6, 8 行目	MinimumDFA (2箇所)	Minimum_DFA								
1	83	14 行目	<u>スタックが空になるときに現れる</u> . 初期記号ともいう.	初期記号ともいう.								
1	84	例題 4.2 解答例(2) 最下行	$\prec_M (q_3, cc, AAZ_0) \vdash_M (q_3, c, AZ_0) \vdash_M (q_4, \varepsilon, Z_0) \vdash_M (q_5, \varepsilon, \varepsilon) \circ$	$\prec_M (q_3, cc, AAZ_0) \vdash_M (q_4, c, AZ_0) \vdash_M (q_4, \varepsilon, Z_0) \vdash_M (q_5, \varepsilon, \varepsilon) \circ$								
1	93	下から 2 行目	$A_1 \rightarrow 1 A_2, \quad A_1 \rightarrow 1 A_1 A_2, \quad \cdots$	$A_1 \rightarrow 1 A_2, \quad A_1 \rightarrow 0 A_1 A_2, \quad \cdots$								
1	94	9 行目	…あとは, $N = \{A_1, A_2\}, \cdots$	…あとは, $N = \{Z, A_1, A_2\}, \cdots$								
1	97	下から 12 行目	…還元の様を表 4.7 に示す. …	…還元の様を表 4.3 に示す. …								
1	97	下から 5~2 行目	ステップ 5 の記述を右と差し替え	ステップ 5 でとりうる動作は, 生成規則 $E \rightarrow T$ の適用による還元か, $T \rightarrow T \times F$ を適用するためのシフトである. そのどちらかかを決定するために 1 記号+を先読みし, 適用できる規則が $E \rightarrow T$ のほうだと判断し, その結果, 還元を選んでいく. これは, 「 $E \rightarrow T$ により還元できるのは, $T$ を $E$ に還元したとすると $E$ の直後に出現しうる終端記号は \$ か + か, あるいは ) のとき」という $G$ の導出に関する性質によっている.								
1	98	表 4.3	ステップ 9, 10 を右のように変更	<table><tr><td>9</td><td><math>\times 1) \\$</math></td><td><math>(E + F</math></td><td><math>T \rightarrow F</math> により還元. <math>F</math> がハンドル</td></tr><tr><td>10</td><td><math>\times 1) \\$</math></td><td><math>(E + T</math></td><td>1 記号先読みして次動作を決定 シフト</td></tr></table>	9	$\times 1) \$$	$(E + F$	$T \rightarrow F$ により還元. $F$ がハンドル	10	$\times 1) \$$	$(E + T$	1 記号先読みして次動作を決定 シフト
9	$\times 1) \$$	$(E + F$	$T \rightarrow F$ により還元. $F$ がハンドル									
10	$\times 1) \$$	$(E + T$	1 記号先読みして次動作を決定 シフト									
1	106	15 行目	…スタックトップの記号 $A$ , つぎの状態 $q_1$ の 3 つ…	…スタックトップの記号 $A$ , 「将来」の状態 $q_1$ の 3 つ…								
1	106	下から 5 行目	$\cdots \rightarrow a[q'B_1q^{(1)}][q^{(2)}B_2q^{(3)}]\cdots$	$\cdots \rightarrow a[q'B_1q^{(1)}][q^{(1)}B_2q^{(2)}]\cdots$								

2	108	13~15 行目	<p>…で、その心は、現在の状態 <u><math>q</math></u> と現在のスタックトップの記号 <u><math>A</math></u>、つぎの状態 <u><math>q'</math></u> の 3 つ組 <u><math>\langle q, A, q' \rangle</math></u> を一つの記号とみなし、一つの非終端記号を表すとする</p> <p><u>ところにある</u>、生成…</p>	<p>…で、それは、状態が <u><math>q</math></u> で、スタックトップが <u><math>A</math></u> である様相から、その後に何ステップか進んで <u><math>A</math></u> がポップされて状態が <u><math>q'</math></u> になるまでの間に読み進んだ記号列、という意味合いをもつ、生成…</p>
1	109	16 行目と 17~18 行目の 2 箇所	$\dots \cdots [q_k B_k q_{k+1}] \Rightarrow^{l-1} \underline{w}$	$\dots \cdots [q_k B_k q_{k+1}] \Rightarrow^{l-1} \underline{aw}$
1	109	下から 8 行目	$\dots \Rightarrow a [q_1 B_1 q_2] \text{ は、 } \dots$	$\dots \Rightarrow a [q_1 B_1 q_2] \cdots [q_k B_k q_{k+1}] \text{ は、 } \dots$
1	112	15 行目	<p>…<math>vx</math> は <math>a</math> と <math>b</math> しか含まず…</p>	<p>…<math>vx</math> は <u><math>b</math></u> と <u><math>c</math></u> しか含まず…</p>
1	124	10 行目	<p>…入力によっては止らない…</p>	<p>…入力によっては<u>止</u>まらない…</p>
1	127	図 5.14	<p>右図のように、上丸位置の <math>a</math> を <u><math>a'</math></u> に、下丸位置の <math>b'</math> を <u><math>b</math></u> に変更。</p>	
1	130	11 行目	<p>…文脈依存文法が満すべき規則を…</p>	<p>…文脈依存文法が満<u>た</u>すべき規則を…</p>
2	136	下から 5 行目	$\dots, L_1^* = \{\varepsilon\} \cup L_1 \cup L_1 \cup \dots$	$\dots, L_1^* = \{\varepsilon\} \cup L_1 \cup L_2 \cup \dots = \dots$
1	137	7 行目	<p>Exercise 6.1 言語の階層構造</p>	<p>Exercise 6.1 言語クラスの閉包性</p>

1	137	11 行目	..., $L_1 \cap L_2$ は...	..., $L_1 \cap L_2, \Sigma^* - L_1$ は...
1	138	7 行目	...1 対 1 対応と背理法を述べる.	...1 対 1 対応と <u>カントールの対角線論法</u> を述べる.
1	145	12 行目	if(Mb(M, x) == 0)	if(Mb(M, x) == <u>1</u> )
1	145	18~19 行目	...を判断させ, それが 0 を返してくれば無限ループし, 1 を返して...	...を判断させ, それが <u>1</u> を返してくれば無限ループし, <u>0</u> を返して...
1	145	下から 5~4 行目	... $M_i$ が $x_i$ に対して停止しないとき $M_d$ は停止し, $M_i$ が $x_i$ に対して...	... $M_i$ が $x_i$ <u>に</u> に対して停止しないとき $M_d$ は停止し, $M_i$ が $x_i$ <u>に</u> に対して...
1	155	10 行目	...を取ると, $ uv  \leq u$	...を取ると, $ uv  \leq \underline{n}$
1	157	5 行目	[解答例] $\{0^i 11^j \mid i, j = 0, 1, 2, \dots\}$	[解答例] $\{0^i 111^j \mid i, j = 0, 1, 2, \dots\}$
1	158	1 行目	...の数が等しい記号例が受理され, ...	...の数が等しい記号 <u>列</u> が受理され, ...
2	158	3 行目	$L(M) = \{a^i b^j c^k \mid i = 1, 2, \underline{3}, \dots, i = j \text{ または } i = k\}$	$L(M) = \{a^i b^j c^k \mid i, \underline{j}, \underline{k} = 1, 2, \dots, i = j \text{ または } i = k\}$
1	158	Exercise 4.4 (2)の 6 行目	$P = \{S \rightarrow 0S0, S \rightarrow 1S1, S \rightarrow A, A \rightarrow \varepsilon\}$	$P = \{S \rightarrow 0S0, S \rightarrow 1S1, \underline{S \rightarrow 00}, \underline{S \rightarrow 11}\}$

